

岩手県や宮城県と違って津波の被害以上に今もなお原発事故の影響が暗く重くのしかかっている福島県。

被災地訪問で相馬港を訪れ津波の被害と復興状況を見聞し、このあと校友の被災者（立谷味噌醤油店経営）から当時の状況などお聞きする。この中で原発の放射能汚染に係る風評被害のことも触れられ津波の被害だけではないことを再認識。しかしこの相馬市は原発から 40 km の場所。環境放射線量は市内各測定地点 0.1～0.4 マイクロシーベルト（11 月 14 日）。私どもの住む東海地方では 0.05 マイクロシーベルトといった値。しろうと考えて一桁違う状況。「人体に影響はありません」と言われても。これが何十年も蓄積されたらどうなるの。いやこの程度の数値ではご心配いりません。でもホントにそうなの。

相馬港から福島市内へ向かう途中、車窓から大きなビニール袋が整然と並んでいる様子が見られました。『あれは除染作業で集められた残土です。今は仮の置場で最終的にどこへ持って行くのか決まっています』との説明。山林の中に突如として現れる異様な風景。今も放射線を出し続けているという。しかもこれから何十年、何百年先も…。

休憩地のアイスクリームのおいしい店に立ち寄る。この時、地元の校友から相馬市内でこのあたりが最も放射線量が高い地域ですと言われ、持参した簡易測定器で計測すると 0.55 マイクロシーベルトの数値。私が住む地域の 10 倍。でもこの程度の数値は全く問題ありませんという政府発表があるのかないのか。

この休憩地をあとにして宿泊先の旅館に到着。地元校友をまじえた勉強会に参加。質疑応答の時間に『除染の残土の最終処分場がなかなか決まらなると聞いていますが原発周辺の帰宅困難地域にすればいいと思いますか』と。答『政府の方針が決まらないのでなんとも言えない』確かに『福島を核のゴミ置場にするな』という話は聞いたことがあります。今まで長年にわたり住んでいた場所が、核のゴミ置場になるなんて。しかしそれでは日本国内の一体どこに核のゴミ置場があるのでしょうか。誰でも思いつくのは原発の帰宅困難地域です。国は政治的決断をもってこの地域全体を買収し除染の残土最終処分場とする。

地元の関係者がこうした話を言い出せるものではありません。このあと懇親会の場で、地元の校友の方に一般家庭での除染の効果についてお尋ねしたところ『気安め程度』という、お答えでした。

放射能の影響が 20 年、30 年後一体どうなるのか全くわからないという話。

原発事故直後アメリカ政府は原発から 80 km 圏内にいる自国民に対し直ちに避難するように呼びかけたという話。原発事故発生後核燃料のメルトダウンの可能性を指摘した人物が非難されたという話。（ほんとうはメルトダウンの状態だった）。私たちは本当のことを知らされていないのでは。国は本当のことをしっかり発表し、例えば除染の残土の最終処分場は原発周辺の帰宅困難地域にしかない。については当該地域の土地の買いあげ、そして移転補償を実施する旨の方針を発表し、いち早い復興の推進をはかるべきです。これに要する費用は莫大です。『この費用をどこから持ってくるの？』原発事故から 3 年たって、私たちは原発事故直前の『原発はいらない』という言葉のを忘れかけています。原発事故は収束などしていません。

震災予算のとんでもない流用の実態。オリンピックを、本当に日本でやらなければならない理由は何。オリンピックで使うお金を原発事故対応に使うべきではないか。

今日もまた、福島県の人々は暗く重くのしかかる放射能の下で、生活をよぎなくされておられます。

今回の福島訪問を通して、もっと福島のことを私たちは考えるべきであり、福島のことを忘れかけていた私自身も反省すべきだと痛感した次第です。